

3年生の後期期末考査が始まりました。

文責 学校長



～卒業に向けた最後の関門です。～

1 3年生は高校生活最後のテストです。

本日(28日)から4日間の日程で、3年生にとって**高校生活最後の定期試験**が始まりました。卒業に必要な単位を修得するための最後の関門です。十分な学習をして合格点が取れるように頑張りましょう。同時に**課題等の締め切りも近づいている**と思われます。本校の成績評価においては、日常のその教科・科目の授業に対する関心・意欲・態度が重視されていますので、単位修得に必要な成績を取るために、締め切りに間に合うように課題等を提出してください。

2 2年生の進学希望者で来年度大学を受験する人は今年度のテストに挑戦してみよう。

1月18日(土)・19日(日)に**大学入試センター試験**が実施されました。1990年から30年続いたセンター試験も今年度で終了し、2021年度からは「**大学入学共通テスト**」と名称を変え、新テストとなります。本校では、これまでほぼ全員が指定校の私大進学を選択し、より高い学力が求められる国公立大学や一般推薦・AO入試の私大にチャレンジする人はいませんでした。しかし、昨年度の3年生から、**一般入試(推薦・AO)に挑戦**する諸君が現れ、今年度は**センター試験に果敢にチャレンジ**する3年生も出ました、2年生・1年生の中には**さらに高いレベルの志望校を目標とする頼もしい生徒**も出てきました。2年生は、今年のセンター試験の問題に是非トライしてみてください。新テストでは記述問題が出題されることになっていましたが、世論の批判を浴びて見送られることになりました。基本的には、これまでの出題形式がベースとなると予想されます。来年度に向けて対策を始めましょう。



3 今日の一言・・・坂本龍馬と岩崎弥太郎(高知県出身)の言葉です。

○人生は一場の芝居だというのが芝居と違う点が大きくある。芝居の役者の場合は舞台は他人が作ってくれる。なまの人生は自分で自分のがらに適う舞台をこつこつ作って、そのうえで芝居をするのだ。他人が舞台を作ってくれやせぬ。

○一旦志を抱けば、この志にむかって事が進捗するような手段のみをとり、いやしくも弱気を発してはいけない。たとえその目的が成就できなくても、その目的への道中で死ぬべきだ。



【解説】高知と言えば坂本龍馬と岩崎弥太郎を取り上げたい。「自分で舞台を作る、これが人生だ」と坂本龍馬は語っています。私たちの人生も、誰かの書いた芝居でもないし、誰かの作った舞台でもありません。すべてを自分で作り上げる難しさや楽しみが人生にはあると言えるでしょう。「自分で自分のがらに適う舞台をこつこつ作って、そのうえで芝居をするのだ。」という言葉のように、どんな舞台をつくるかは自分という人間について考え、自分のしたいことをみつけ、自分にあった場所をみつけてからがはじまりです。もちろん一朝一夕にはできないことです。こつこつと、少しずつ人生を作っていくことの大切さ、そして志を立てたらそれを貫くことの大切さを坂本龍馬はこの言葉に込めています。

【坂本龍馬について】土佐郷土に生まれ、1862年(文久2年)に脱藩した後は志士として活動し、貿易会社と政治組織を兼ねた**亀山社中**(後の**海援隊**)を結成。**薩長同盟**の斡旋、**大政奉還**の成立に尽力するなど倒幕および明治維新に影響を与えた。また、大政奉還を成し遂げるため、「**船中八策**」を記したことで有名。(参考: Wikipedia より)

○機会は、人間一生のうちに誰でも、一度や二度は必ず来るものである。それをとらえそこねると、その人は一生立身できない。

○およそ事業をするには、まず人に与えることが必要である。それは、必ず大きな利益をもたらすからである。

【解説】三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎の言葉です。三菱財閥は後の**三菱商事・三菱重工業・三菱UFJ銀行・三菱電機・三菱自動車・三菱化成・三菱マテリアル**など三菱グループの企業として現代に続いています。坂本龍馬以上に近代日本の発展に欠かせない存在の一人です。

【岩崎弥太郎について】土佐藩(高知県)出身の実業家で、三菱財閥の創業者。明治の動乱期に政商として巨利を得た最も有名な人物である。慶応3年(1867年)、後藤象二郎により藩の商務組織・土佐商会主任、長崎留守居役に抜擢され、藩の貿易に従事する。坂本龍馬が脱藩の罪を許され海援隊が土佐藩の外郭機関となると、藩命により隊の経理を担当した。(参考: Wikipedia より)



4 今日の一冊・・・今回の一冊は、高知県出身の有川浩の『県庁おもてなし課』です。

地方には、光がある一物語が元気にする、町、人、恋。とある県庁に突如生まれた新部署“おもてなし課”。観光立県を目指すべく、若手職員の掛水は、振興企画の一環として、地元出身の人気作家に観光特使就任を打診するが…。「バカか、あんたらは」。いきなり浴びせかけられる言葉に掛水は思い悩む一いつたい何がダメなんだ!?掛水とおもてなし課の、地方活性化にける苦しくも輝かしい日々が始まった。（「e-book」より）



【解説】作者・有川浩さんの出身地である高知県を舞台とした小説で、高知県から観光特使を依頼された際の体験に触発されて書き起こされた作品です。題材となっているのは高知県庁に実在する観光振興部・「おもてなし課」です。物語は「おもてなし課」内の人間関係、また「おもてなし課」をオブザーバー的立場でサポートする清遠一家の人間関係を中心として展開しつつ、純情な恋愛模様も織り交ぜつつ、舞台となる高知県の特色を見事に描き出しています。この小説を読むと、自分も県庁マンとして地域おこし・町おこしに頑張ってみようかなあと思わせてくれる、そんな一冊です。佐賀県庁マンには是非読んでほしい一冊です。

【作者・有川浩について】名前から男性と勘違いされていることが多いが「アリカワヒロ」と読み、女性小説家である。高知県生まれで、第10回電撃小説大賞『塩の街 wish on my precious』で2004年デビュー。2作目の『空の中』が絶賛を浴び、『図書館戦争』シリーズで大ブレイク。雑誌「ダ・ヴィンチ」の好きな恋愛小説ランキングでは『ストーリー・セラー』が1位を獲得。『キケン』が第1回山田風太郎賞の最終候補作品となる。また『シアター!』を原作とした舞台「もうひとつのシアター!」では初めて脚本を執筆。今、もっとも面白い物語を生み出す。（参考：Wikipediaより）

5 日本全県味めぐり…第40回は高知県です。

高知県のグルメと言えば、「皿鉢料理」「カツオのたたき」「川エビ(手長エビ)」「土佐ジロー鍋」を挙げたい。まず「皿鉢料理」(さわちりょうり)とは、土佐の酒宴の席には欠かせません。大皿に刺身、カツオのたたき、寿司、揚げ物、煮物、酢の物などを盛り合わせた豪快な郷土料理が皿鉢料理です。現在でも高知の酒の席では欠かすことの出来ないものです。次に「カツオのたたき」。カツオは古くから土佐人に最も愛されてきた魚で、高知県の「県魚」に指定されています。高知市では1世帯あたりの年間カツオ購入料がおよそ6 kg。全国平均のおよそ1 kg に比べて飛びぬけていて、昭和51年以降、第一位の座を譲っていません。このカツオの最もポピュラーな食べ方がたたき。高知県民の食生活において、絶対に外せない王道的な存在です。そして、「川エビ(手長エビ)」。高知にある清流、四万十川は、川の美しさはもちろん、ミネラルが豊富で、その栄養分を存分に吸収した良質のコケが発生します。そのコケを食べて育った川エビ(手長エビ)は、体長約9センチにまでまるまると太り、カルシウムやタンパク質が豊富で、プリッとした食感が特長です。川エビの美味しさを丸ごと味わうのならば、唐揚げがおすすめの食べ方です。地元では素揚げが定番で、川エビを揚げると、美しい紅色となり、皮の香ばしさと身の弾力と火を通すことで引き出される甘みが絶妙の味わい。酒のつまみに、子どもたちのお菓子としても活躍します。最後に「土佐ジロー鍋」。高知県のブランド地鶏で「土佐地鶏」を父に、在来種のロードアイランドレッドを母に持つ地鶏「土佐ジロー」。肉と卵の両方が食べられる数少ない鶏の品種として重宝されており、県内各地で育てられています。その地鶏を使った鍋料理が”土佐ジロー鍋”です。地元産のゆずを使った出汁は、風味が心地良いだけでなく、身が締まっていて、歯ごたえのある土佐ジローの肉との相性が抜群です。（参考：「郷土料理ものがたり」より）



【芋けんぴ】高知のお土産の定番と言えば芋けんぴです。素材の高知県産のさつまいもは、甘味が強いという特徴があります。短冊に切ったさつまいもを油でカラッと揚げ、砂糖でコーティングすることにより、サクッとした食感になります。噛めば噛むほど、さつまいもの美味しさが口の中いっぱい広がっていき、食感の良さに手が止まらなくなります。万人受けの逸品です。

【かんざし】銘菓かんざしは年間450万個完売の超人気のおやつ菓子で、高知のおみやげの定番になりつつあります。おやつに最適な飽きの来ない美味しさがロングセラーとなっている理由の一つです。純信とお馬のほろ苦い恋物語を、ほんのり甘ずっぱい 柚子の香りに託したお菓子です。しっかりと甘いものの、さっぱりとした後味になっています。



6 保護者の皆様へ・・・SNSの不適切な書き込みや掲載に注意を。

スマホで授業中の様子を動画で撮影して投稿したり、不適切な書き込みや個人情報や無断で掲載すると生徒指導措置(謹慎処分)の対象となります。個人が特定される情報(学校名・氏名・友人名・担任名)の掲載も厳禁です。